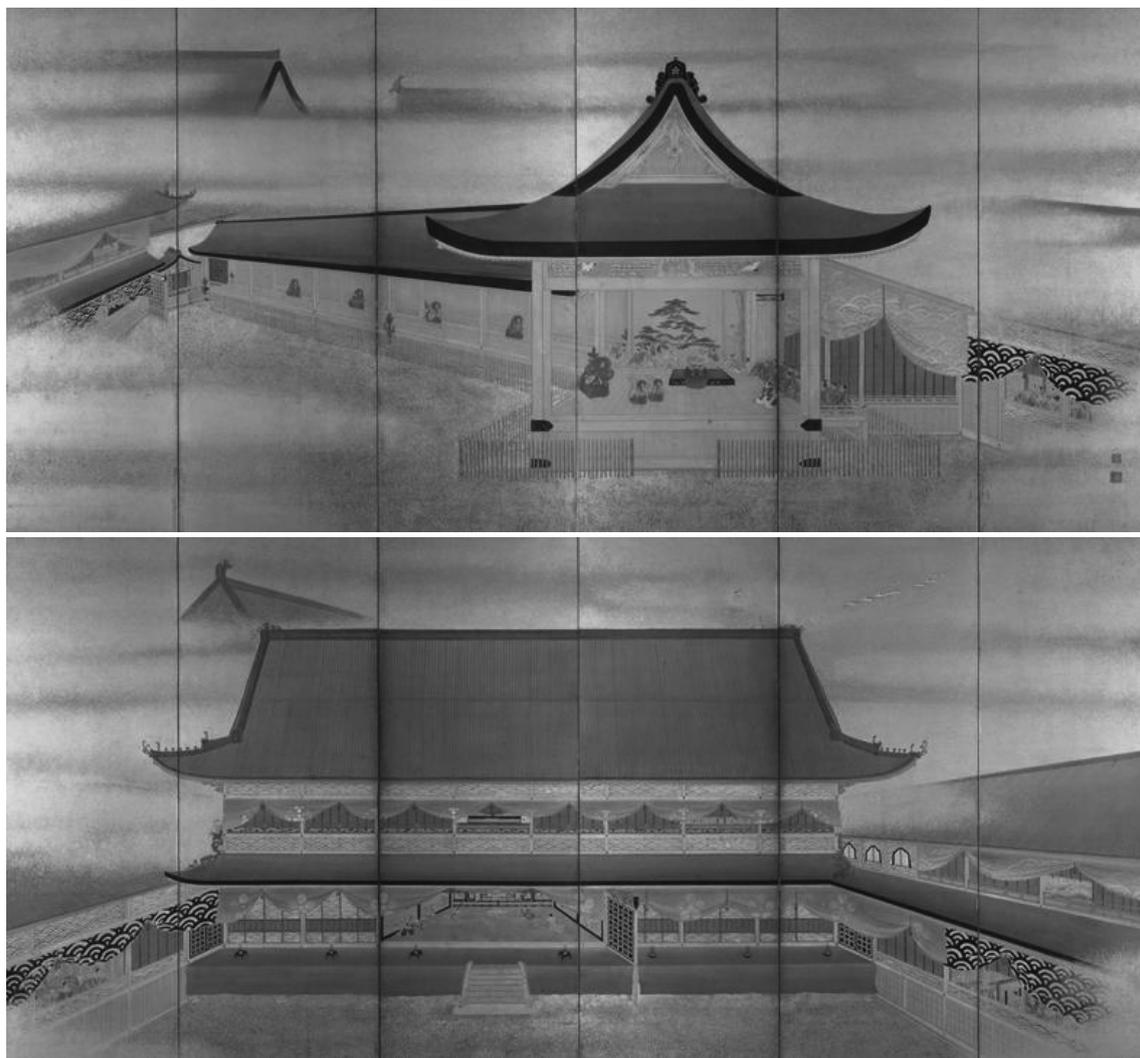


富山市の文化財

第 4 号



千歳御殿図の屏風

嘉永元年(1848)富山第10代藩主前田利保(1800～1859)が隠居所として築いた千歳御殿の能舞台(上図)とそれに対面する御覧所(下図)をそれぞれ六曲の画面に描いた屏風で、江戸時代末期～明治時代初期頃のもので、上図の舞台では、祝言の舞である七人猩々しやうじやうが演じられています。利保は、下図に描かれた御覧所の1階中央奥の座より観能しました。この作品を描いた木村立嶽りゅうは、能舞台の松の鏡板絵を描くなど御殿造営にもかかわっています。

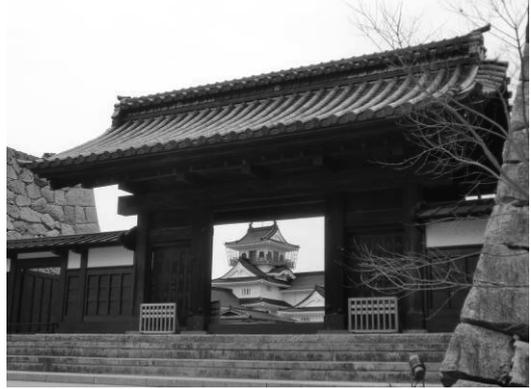
この屏風絵は、現存していない御殿の華やかな様子がわかり、歴史的な資料としても貴重です。昭和46年3月25日に市指定文化財に指定されており、現在、富山市在住の方が所蔵しています。

富山市教育委員会

千歳御門を開門

平成 18～20 年に城址公園に移築した千歳御門(市指定文化財)を平成 24 年 4 月 27 日から常時開門しています。開門にあたり、扉に付いている金具の前に柵を設置したり、蹴放けはなしに木のカバーを取り付ける保護作業を行いました。

城址公園の新たな玄関口になっています。



平成 24 年度に行った主な事業

1 文化財総合調査事業(重点分野創出事業活用)

この事業は市内のそれぞれの地域に残された文化財の現状を把握し、総合的な視点から調査・整理を行い、広く一般に公開することを目的とする事業です。

24 年度は、富山地区(神通川右岸)、山田地区、大山地区、八尾地区を対象として、調査を行いました。石仏や土蔵、灰納屋はいなやなど約 3,200 件の文化財を確認し、資料の台帳を作成しました。

また、有識者による懇話会を開催し、事業の進め方等について意見を伺いました。

2 文化財標識等の修繕・新設

国・県・市指定文化財と埋蔵文化財などの案内板の修繕と新設を行いました。

- (1) 修繕した案内板 直坂遺跡すぐさか、野積のづみの左巻かやひだりまき、大久保高砂山たかさごやま、曳山じょうのう、城生城跡いだしゅめが、井田主馬ケ城跡おおど、大道城跡おおのき、大道城跡鳥瞰図おおのき、素盞鳴社すさのうの大櫓おおけやき、葛原つばはらの大榎おおえのき、大ヒサカキたちお、シダレイチョウおおえのき、刀尾神社たちおの大ケヤキおおえのき、尊光寺そんこうじの大イチョウひかたえ、日方江城跡ひかたえ、江本経塚えのもと、住吉古墳こうぼうだいし、弘法大師阿字観処石標あじかん

- (2) 新設した案内板 千歳御門(埋門)



3 旧水橋郷土史料館の収蔵資料展示など

水橋郷土資料展示コーナーで、企画展(年 2 回)などを行いました。

(1) 企画展

ア. 「刷り物～その用と美～」

平成 24 年 6 月 12 日～12 月 2 日

引き札、売薬版画など 89 点を展示しました。

※水橋高校が文化祭出品ビデオ撮影のため来館
イ. 「水橋の遺跡物語 2012～木と水のハーモニー～」(企画は市埋蔵文化財センター)

平成 24 年 12 月 4 日～平成 25 年 6 月 2 日

水橋地区の遺跡からの出土品など 116 点を展示しました。



(2) 収蔵資料の貸出など

- ア. 大井冷光おおい れいこうの『鳩のお家』 平成 24 年 5 月 21 日～23 日 地元研究者
イ. 小寺菊子こでらきくこの直筆小説『小春の日』 平成 24 年 6 月 4 日～10 月 15 日
高志の国文学館「展示、レプリカ・パネル作成」
ウ. 富山売薬版画 6 点 平成 24 年 7 月 10 日～8 月 21 日
滑川市博物館「企画展 懐かしの絵紙－富山の売薬版画－」

(3) 旧水橋郷土史料館見学など

24. 5. 1 取材：売薬関係資料(富山テレビ放送)
24. 7. 10 見学会(水橋中学校・三成中学校)
24. 8. 31 撮影：越中立山之図(富山県立山博物館) 秋季特別企画展図録『木版文化
と立山』掲載
25. 1. 18 撮影：売薬関係資料(ふるさと開発研究所)『富山写真語万華鏡第 252 号
(道具もの語り)』掲載

4 国指定重要文化財建造物管理

(1) 浮田家住宅

- ア. 入場者数 1,610 人(平成 25 年 2 月末現在)
①視察・団体 8 件 ②取材など 8 件
イ. 行事・イベントなど
24. 6. 3 急須塚祭きゅうすづか(煎茶道 松風流)
24. 9. 9 研修茶会(富山宗志会)
24. 9. 29 清掃奉仕(教職員厚生会と山室中学校)
24. 10. 6 清掃奉仕(富山神通ライオンズクラブ・太田
長寿会)
24. 11. 3 文化の日のため無料公開
25. 1. 17 文化財防火デー査察

ウ. 維持管理

- ・樹木の剪定、施肥、雪囲いや除草などの庭園管理業務
- ・主屋かやぶきの茅葺屋根の補修、石置いしおきひさし庇屋根の清掃、雪囲い
- ・簡易柵の修理 ・ポンプ室屋根修理
- ・外トイレ壁の修理 ・障子の修理

(2) 旧森家住宅

- ア. 入場者数 31,280 人(平成 25 年 2 月末現在)
①視察・団体 216 件 ②取材など 21 件
イ. 行事・イベントなど
24. 5. 28～6. 1 14 歳の挑戦 和合中学校(2 名)
24. 7. 28 第 64 回岩瀬みなとまつりのため無料公開
24. 9. 8 文化財散策ツアー
24. 10. 1～5 14 歳の挑戦 岩瀬中学校(3 名)
24. 10. 18 駐車場除草(県教職員 OB)



テレビ番組の撮影(浮田家住宅)



清掃奉仕(浮田家住宅)



タイの放送局の取材(旧森家住宅)

- 24. 11. 3 文化の日のため無料公開
- 24. 11. 4 第 28 回岩瀬文化祭のため無料公開
- 25. 1. 25 文化財防火デー査察

5 文化財保護支援事業

文化財の保存と継承を目的として、次の事業に支援を行いました。

- (1) 越中の稚児舞舞台新調・修理事業<国指定>
- (2) 越中の稚児舞(熊野神社)保存事業<国指定>
- (3) 八尾曳山保存修理事業<県指定>
- (4) さんさい踊り開催事業<市指定>
- (5) 中老田のモチノキ保存事業<市指定>
- (6) 大玉生のかつら保存整備事業<市指定>



越中の稚児舞 仮組みした舞台

6 浜黒崎の松並木の環境整備

県指定文化財である「浜黒崎の松並木」の周辺の除草、薬剤散布、枯枝除去、整姿剪定を実施しました。

7 カモシカの保護

国特別天然記念物であるカモシカの保護を行っています。平成 24 年 3 月～平成 25 年 2 月の滅失件数・出動件数は以下のとおりです。

	24年3月	24年度計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	25年1月	2月	計
滅失件数	1	18	4	4	2	0	1	1	3	2	2	0	0	19
出動件数	1	30	4	8	6	2	2	1	4	3	2	0	0	32

8 指定文化財の整備業務

富山県指定天然記念物や富山市指定史跡などの草刈・雑木刈等の整備業務などを行いました。

- (1) 城生城跡 平成 24 年 5～7 月
- (2) 井田主馬ヶ城跡 平成 24 年 9 月
- (3) 大道城跡 平成 24 年 7 月
- (4) 尾畑城跡おぼたけ 平成 24 年 7 月
- (5) 舟つなぎのしいのき 平成 24 年 11 月
- (6) 小井波の水芭蕉 整備事業（水源調査、散策路・畦修繕・水路設計）設計業務委託



舟つなぎのしいのき

9 富山市博物館施設等連携事業

(1) 富岩運河周辺文化財散策ツアー

9 月 8 日、上野幸夫教授(職藝学院)を講師に招いて、富岩水上ラインと富山ライトレールを利用して、運河周辺の文化財をめぐるしました。参加者は 26 名です。



牛島閘門こうもん(国登録有形文化財)、中島閘門・旧森家住宅(国指定重要文化財)、竹島家住宅(市指定文化財)を見学しました。

(2) 市民向けバスツアー

10月27日に実施しました。ツアーのコースは、郷土博物館・佐藤記念美術館・民俗民芸村・大山歴史民俗資料館・猪谷関所館でした。参加者は20名です。

また、「富山市の博物館等ガイドマップ」を増刷しました。ガイドマップに掲載された施設や生涯学習課、各教育行政センター等に設置してあります。なお、富山市のホームページ(「富山市観光ガイド」-「パンフレットギャラリー」)からダウンロードできます。



10 富山市文化財調査審議会の開催

平成25年3月18日に、平成24年度の富山市文化財調査審議会を開催しました。平成23・24年度文化財関係事業の実績、平成25年度文化財関係事業の概要、市内文化財関係調査(富山市舟橋新町・煉瓦造り煙突、富山市東中野町・土蔵)について報告し、市指定文化財(天狗平てんぐびらの化石層)の指定範囲と市指定文化財候補についての検討を行いました。

11 第59回 文化財防火デー

1月26日の文化財防火デーにあわせて、指定文化財を保有する施設にて消防訓練や消防設備点検、防災指導等を行う査察が富山市消防局により実施されました。

消防訓練には、自治振興会や消防団員など地域住民の方々も参加しました。

(1) 消防訓練

- 1月20日 内山邸(富山市宮尾) 76名
- 1月24日 大山歴史民俗資料館(富山市亀谷) 25名
- 1月26日 猪谷関所館(富山市猪谷) 56名
本法寺(富山市八尾町宮腰) 54名
各願寺(富山市婦中町長沢) 27名
- 1月27日 最勝寺(富山市蜷川) 47名



(2) 査察など

- ア. 富山地域 旧金岡家住宅かいぜん、海禅寺ぎょくえい、玉永寺など25ヶ所(平成25年1月9~27日)
- イ. 大沢野・細入地域 大淵寺だいえん、帝龍寺たいりゅうなど7ヶ所(平成25年1月18~26日)
- ウ. 大山地域 念法寺ねんぽう、大川寺だいせん、東薬寺とうやくなど5ヶ所(平成25年1月15~24日)
- エ. 八尾地域 聞名寺もんみやう、八尾曳山展示館、本法寺など3ヶ所(平成25年1月17~26日)
- オ. 婦中地域 本覚寺ほんがく、善導寺ぜんどうなど6ヶ所(平成25年1月26~30日)



富山市の文化財案内 市指定・絵画編(その1)

1 正源寺の鳴龍

〔所在地〕 富山市西番(正源寺)

〔指定日〕 昭和46年3月25日

この寺の本堂広間の天井一面に描かれた墨絵の龍は、水除けの守り神とされています。

富山第10代藩主前田利保としやす(1800～1859)が常願寺川の水害から富山城下を守ろうと、藩の絵師山下守胤やましたもりたね(1786～1869)に

描かせました。厚さ約5cmの松の板11枚に描かれた龍は、その構図の大胆さや豪放な筆さばきから守胤の代表作とされ、美術史的にも高い価値を受けています。

また、この龍は氾濫を事前に住民に知らせるため鳴いたと伝えられ、地元では昔から「鳴龍」の呼び名で知られています。現在でも天井の下で手拍手を打つと音が反響し、龍が鳴いているかのように聞こえます。



(北日本新聞社2010『まんまる 6月号』から転載)

2 絹本着色 不動明王図

〔所在地〕 富山市婦中町長沢(各願寺)

〔指定日〕 平成11年6月24日

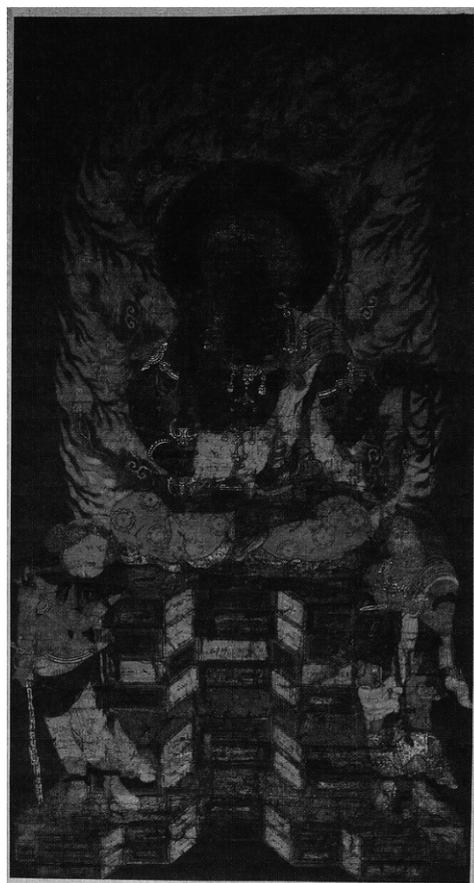
不動明王は、大日如来の化身だいにちによらい げしんとして、恐ろしい姿をもって、如来の教えに従わない衆生しゅうじょうを教化きょうかし、正しい道へ導く明王です。

左手には絹索けんさく、右手には俱利伽羅竜くりからりゅうを巻いた剣けんを持ち、迦楼羅炎光背かるらえんこうはいを背に瑟瑟座しつしつざに座り、明王の前には2人の童子が描かれています。

このような図像は、平安時代後期(11世紀)の作で、国宝になっている青蓮院しょうれいいん(京都市東山区)の「青不動」あおふどうに近いものがあります。

火炎光背に鎌倉時代の雄渾な筆致がうかがえますが、粗い絹地が用いられ、頭髪や台座の描き方が少し形式化していることなどから、制作年代は南北朝～室町時代の初期(14世紀後期～15世紀初頭)と考えられます。

裏書によると、元禄3年(1690)11月、各願寺の前住職の乗尊こうやさんだいらくいんが、高野山大楽院(和歌山県)にて法をうけた縁をもって、当時の同寺住職ならびに壇越だんおつのもとめにより、大楽院第29代の問津かふから下付されたとのこと。



3 八郎兵衛大蛇退治の絵

〔所在地〕 富山市山田鎌倉

〔指定日〕 平成 3 年 11 月 26 日

八郎兵衛が、襲いかかる大蛇に、持っていた鍬で立ち向かう様子を描いた絵です。

この絵の添書である『越中国婦負郡山田谷村々珍事抜書』（富山県立図書館蔵）によると、八郎兵衛が、家の天井で飼っている蚕を襲おうとしている大蛇を見つけて、退治したことや、そのことが富山藩第 9 代藩主前田利幹としつよ（1772～1836）の耳に入り、利幹が退治の様子を描いた絵を八郎兵衛に与えたこと、龍沢院（前田利保）が八郎兵衛を訪ね、この話を聞いたことなどが書かれています。

絵の右上には、「天保六未年五月廿五日」と記してあり、1835 年頃に描かれたと考えられます。



4 軸装教如上人絵像

〔所在地〕 富山市片掛えんりゆう（円龍寺）

〔指定日〕 昭和 60 年 3 月 1 日

教如上人（1558～1614）は、浄土真宗の僧で、本願寺第 12 代です。東本願寺の開祖にあたります。

この時代の本願寺教団の本拠地は、現在の大阪城付近にあった石山本願寺で、経済的にも軍事的にも大きな勢力を誇っていました。やがて織田信長と対立することとなり、11 年間にもおよぶ石山合戦けんによをくりひろげ、教如は、父顕如上人（本願寺 11 代）とともに石山本願寺にこもって抵抗しました。

顕如は、各地の一向衆徒に決起を促したため、円龍寺の円覚はこの意をうけ、越中衆 61 人とともに戦いに身を投じ、命を落としました。

この絵は、この合戦に自ら馳せ参じて功労のあった寺院方に対し、援軍の証とその褒美の意味で授与されたと考えられます。慶長年間（1596～1615）の製作と推定されます。

裏書には「本願寺口宣如（花押） 元和四年七月五日 弘願寺門徒本覚寺下越中 婦負郡片懸村圓龍寺什物也 願主 尊了」とあり、元和 4 年（1618）7 月に、宣如上人（本願寺 14 代）から円龍寺に下賜されたことがわかります。



じくそうはんにはやじゅうろくぜんじん え ぞう
5 軸装般若十六善神絵像

〔所在地〕 富山市片掛(大淵寺)

〔指定日〕 昭和60年3月1日

般若十六善神は、大般若経を守護する諸神です。

中央には釈迦如来、その左下には白象に乗る普賢菩薩、右下には獅子に乗る文殊菩薩が描かれています。これらの左右には十六善神が見えます。

また、白象の前には常啼菩薩、獅子の前には法涌菩薩、一番手前には、玄奘三蔵と深沙大將が表わされています。制作年代は江戸時代後期で、作者については、裏書に「仏絵師松本柳寿」とあります。

この絵は、天保4年(1833)7月、若狭や大阪など主に関西の人たちが、大般若経600巻に添えて、岩嶮寺永泉坊に寄進したものです。

明治の神仏分離令によって、永泉坊はこの絵と大般若経を手放したため、明治時代初めに弘道(大淵寺29代)が買い求め、今に伝えられています。江戸時代後期の立山信仰の広がりや、明治の神仏分離の様子を知る貴重な資料となっています。



6 絵馬村芝居

〔所在地〕 富山市片掛(八坂社)

〔指定日〕 昭和60年3月1日

片掛はかつて銀山で栄えており、村の人達による歌舞伎芝居が盛んでした。この絵、義経千本桜のいくつかの名場面を一枚の絵馬にしたと考えられます。村の民俗芸能を知る貴重な資料です。



裏書には、「明治四十五年七月十日 二度目の張替 片掛村 竹中ツネ 二十三才」とあることから、おそらく明治初年の制作と考えられますが、作者は不明です。

氏子の人々が八坂社へ村の繁栄と安寧を祈願して絵馬を奉納したと考えられます。

〈主な参考文献〉 富山市教育委員会 1988『富山市の「文化財・史跡案内」』、富山市郷土博物館 2007『再現 千歳御殿』、
婦中町教育委員会 1998『文化財を訪ねて』、細入村 2005『細入村史 通史編(続編)』、山田村役場 1981『山田村史 下巻』

富山市の文化財 第4号

発行日 平成25年3月29日
編集・発行 富山市教育委員会 生涯学習課
〒930-8510 富山市新桜町7-38
TEL(076)443-2138 Fax(076)443-2194
印刷 有限会社ヤツオ印刷